

特定非営利活動法人
福山市身体障害者団体連合会

第16号

福山市身連通信

2015 (H. 27) 年 1 月

発行者 NPO法人 福山市身体障害者団体連合会
編集者 福山市身連 広報部市身連通信編集委員会
連絡先 電話 FAX 084-961-4733

目 次

年頭のご挨拶	前川理事長	1
各協会		
市身連 ボウリング大会開催		2
中四国身障相談員研修会報告		3
広島県身障相談員研修会報告		4
市身連 市へ要望書提出		5
市身連 十一月連絡会開催		
アマチュア音楽フェス 音&音		6
ホームページ経過		
賛助会員案内		
他		

年頭のご挨拶

特定非営利活動法人

福山市身体障害者団体連合会

理事長

前川 昭夫

新年あけましておめでとうございます。未年の幕開けです。羊は群れをなして行動するため、家族の安泰や平和をもたらす縁起物とされています。

皆様も平穩に初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は各地で様々な災害が発生しました。被災された関係者に心からお見舞い申し上げます。また流行語の一つにもなった危険ドラッグも話題となり、暮れには衆議院議員選挙も行われるなど慌ただしく駆け抜けた一年でした。

当連合会もホームページを立ち上げて、情報の共有や交流の場として活用し充実を図っていただきたいと思います。

本年は福山市も市政施行一〇〇周年に向け様々なプレイベントが計画されています。

特定非営利活動法人 福山市身体障害者団体連合会としても、一〇〇周年に向け市内の一団体として何らかの提案をし、その役割を果たせたらといういろいろ模索していきたいと思っています。

また、行政のご理解と市民の皆様の支援を賜り、身体障害者団体連合会として何らかの事業が立ち上げられることを目標に掲げ、役員会員一丸となって頑張ります。

結びに本年が皆様にとって最良の年でありますように祈念し、御健勝とご多幸をお祈りし、年頭のあいさつとさせていただきます。

事務局・会計

藤井 貢
藤井 武儀
重藤 弘明
白石 憲式

福山市身体障害者福祉協会

会長 村上 友一

福山市視覚障害者福祉協会

会長 根本 敏太郎

NPO法人 福山ろうあ協会

会長 金尾 千三

松永地区身体障害者福祉協会

会長 小川 愛二

芦田町身体障害者福祉協会

会長 甲斐 賛

駅家町身体障害者福祉協会

会長 石黒 義美

加茂町身体障害者福祉協会

会長 鎌刈 拓也

福山車イス福祉協会

会長 菅原 晃

福山市難聴者・中途失聴者協会

会長 井上 佐智子

新市町身体障害者福祉協会

会長 三島 茂

神辺町身体障害者福祉協会

会長 田上 敬二

市身連ス。ポーツ振興部主催

第1回 ボウリング大会開催

時 十一月十五日(土)
所 コロナキャットボウル

本年度の法人としての事業でス
ポーツ進行部としていくつか計画
を立てていましたが、外部との兼
ね合いや、他の事業の活動のため
日程を変えたりしていた部として
の行事を、やっと開催することが
できました。

第一回のボウリング大会を、ス
ポーツの秋のど真ん中の十一月十
五日やることに、スポーツ振興部
と事務局で会場、日程等検討・交
渉し、駅裏から会場への送迎もし
てもらえる一文字町のコロナキャ
ットボウルで開催となりました。

計画ではボウリングニゲームと
靴、それにお茶付き弁当で個人負
担千円で、足りない経費は市身連
が補助する案で募集し、その結果
各協会から三四名程の参加者があ

りました。

当日、ゲームにはエントリーし
ていない理事長、事務局長も顔を
出され、開会の挨拶をされ、キャ
ットボウルの記念写真の撮影の後、
ゲーム開始となりました。

夏のライオンズ招待のボウリン
グには当分出場のなかった車イス
協会や難聴、視覚協会からもボラ
ンティアの補助を頼み何人もの参
加者があり、それに、生まれて初
めてボウリングを体験すると言っ
人もいて、みんなそれぞれに楽し
んだ一日でした。

大半の参加者が年一、二回しか
ボウリングをやっていない人ばか
りですから、ストライクの歓声は
少なめでしたが、障害者同士の大
会で、少々動きがゆっくりでも、

あまり気を使う必要なく楽しめた
ことと思います。



ゲーム終了後、ミーティンググル
ーに集まって、弁当を食べてその
後に表彰になり、上位5名ととび
とび賞の5名そしてブービーの発
表があり、それぞれダイシンで用
意してあった賞品を受け取って、
菅原部長の挨拶でお開きとなりま
した。

難聴のボランティアの人に手助
けしてもらいましたが、盲人のガ
イドさんをお願いできたならもっと
スムーズに運営できたかと思われ
る点が反省点かと思っています。

大会入賞者

(2ゲームトータル・ハンディ点ナシ)

1位	255点	三宅 吉正
2位	252点	背戸川 博正
3位	237点	駒場 直一
4位	234点	今岡 義男
5位	224点	前岡 正一

(敬称略)

とびとび賞

10位	佐藤 瑞穂
15位	園生 浩治
20位	重藤 弘明
25位	野田 繁雄
30位	千葉 平八郎
ブービー	中谷 博太郎

昨年の熟年川柳秀作一

* 万歩計 半分いじょう

* さがしもの

* このごろは 話も入れ歯も
噛み合わず

* 誕生日 ロウソク吹いて
立ちくらみ

身体障害者相談員研修会受講報告 重藤事務次長

第十六回中・四国ブロック身障相談員研修会

日時 二〇一四年一〇月二三日
場所 山口市 総合保健会館

今年度中・四国身障相談員の研修会は山口県で開催され、中四国各県から一五〇人程の参加者があり、福山市相談協からは神辺の田上・園生両相談員、駅家の石黒相談員それに事務局の重藤相談員の四名が参加して来ましたが、その模様について、重藤事務次長に詳しく報告を書いてもらいました。会報で発表のつもりでの報告ですが、全文を掲載すると多ページにわたりますので、割愛して要点と思うことに絞らせてもらい掲載します。

基調講演 障害保健施策の動向について

厚生労働省社会援護局障害保健福祉部障害福祉課

障害児・発達障害者支援室 菊池芳久室長補佐

先ず障害者施策の全体像について 三三〇万人（４割強）でありこゝてや現行の法体制、対策等について 近年は精神障害者が増加しているとの説明があり、今障害者の総数 とのことでした。

は約七八万人（人口の6.2%） 続いて今後一平成二七年度以降一になり、内身体障害は約三九四万人（ほぼ5割）、知的障害は約七万人（1割弱）、精神障害は約 1 福祉施設から地域生活へ移行

2 精神科病院から地域社会へ
3 地域生活支援拠点等の整備
4 福祉から一般就労への移行
計画としてはこれまで目標とされていた項目がほとんどで、その支援拠点を整備されることが前進かと思えます。今障害者を施設でなく一般社会に受け入れさせて健全者と一緒に暮らせるようにするための目標ですが、そのための環境整備と、一般と言われる人たちの理解を深める事が一番大切なことではないかと思われま

当事者講演 人権・福祉へ広げよう思いやりの輪

社会福祉法人 大和福祉会「周南あけぼの園」

前崎 敏明 施設長

大和福祉会は就労継続支援B型の指定を受けた施設をまとめた会で「大和あけぼの園」（定員六〇人）「周南あけぼの園」（定員四〇人）「光あけぼの園」（定員二〇人）等の知的障害者の就労を支援する施設を運営されて、帆布で高級バッグを作ったり、衣類を解体してウエスを作ったり、清掃作業等をする事業をして、入所者を育て、また「夢ワーク」では自力で通所できる利用者が毎年一般企業に就職できていることなどの話がありました。

そして相談事業所を併設して、障害者の社会復帰の相談・支援も行っている話が聞けました。

＊ 研修会は日身連副会長である鎌刈広島県身連会長の挨拶から始まり、中・四国身障相談員連絡協議会の片岡卓宏会長の開会挨拶が続ぎ、厚労省の講演となつて、現状の説明があつたようですが、一昨年広島で開催された頃より、福祉関係の法案はいろいろ整備されて、予定だとか、方針でとかいう説明は少なくなつたようです。

しかし、ここの所の研修会は、知的の行政担当者や、知的の作業所の運営の当事者の話が続ぎ、身体障害者である私たちの現状から少しづつ、離れた研修の感もあります。（来年は高知で開催予定）

平成二十六年年度

広島県身体障害者相談員研修会

日時 平成二十六年十一月二十五日
会場 広島市 広島県健康福祉センター

例年県内3ヶ所が広島市で開催されている広島県身体障害者相談員の研修会が、今年も広島市1ヶ所で県内の相談員を集めて開催すると案内がありました。

福山市身連も相談員として、相談員の資質向上のためや、県身連の活動に協力する意味も含め、できるだけ多数の参加をしようと、呼びかけをし、結果23名ほどの応募者があり、中型バス一台とふれあい号による車イス使用の3名とで参加してきました。

広島市の会場へ

当日、市内の参加者を集めて駅裏へと向かうバスが、途中の事故による渋滞に巻き込まれ、駅裏で三十分以上遅れている状態での出発となりましたが、市内を出てから運転手さんのガンバリと、広島についてから予定していた宇品港の山海ステーションでの昼食の時間を短縮してどうにか、遅れるこ

となく健康福祉センター8階の会場に到着することが出来ました。

研修開始・基調講演

会場の健康福祉センターには県内各地から一五〇人程の相談員が参加して午後一時から先ず広島県相談員協議会の鎌刈会長の挨拶で開会し、続いて恒例の行政説明があり、「障害者施策の最近の動向」と題して、広島県健康福祉局障害

者支援課の豊田浩二主幹によって説明されました。

先ず資料にそって、施行されて間もない障害者差別解消法について成立・内容・歴史等についての概要を本当に概略説明されて、続いてあいサポート運動について、今後県としても本格的に取り組む予定となっている事についての説明が大まかにあって、最後は、全国で行われている第4期の福祉計画の広島県としての作成についての大枠の説明があり、それぞれについて詳しくは帰って資料をお読み下さいとのことでした。

＊欠席の相談員にも後日、県から資料を送付される予定です。

面接・ロールプレイング

この次が今回の研修のメインとも言えるべき「面接の技法」と題して安田女子大の新宅博明先生の講義と「実習」がありました。

この講義は相談員が、相談したいと思っている人と直に対面して話し合う状態になってからの対応

の仕方の基本となることで、相談者が自分の言いたいこと、聞いてもらいたいことを満足するまで話をさせて、まずは気持ちの満足を与える方法を教えてもらう話でした。

そのためには、話し合いではなく、いかに聞き上手になるかで、初めは口を挟まず、言いたいだけ言ってもらい、話がつきそうになった時、ちょっと聞き返し、相手の言いたいポイントを掴んだら、そこをこちらから反復して口にし、まだ言い足りなさそうだと、少し反論して全てを話した気分になせることのようです。

このことを2人1組になって実践させられて、参加者はいつもの話を聞く研修ではなく、自分たちがロールプレイングさせられる研修でしたので、昼食後すぐの時間帯でしたが、眠たかったとも言っておられませんでした。

最初に「傾聴」と言う言葉を出され、これは腹の中のものを全て話されるまで聞くことに専念し、アドバイスや対応は、そのあとにやることだそうです。

福山市へ要望書の提出

二月九日 部長室にて

あるうと、障害は視覚、聴覚、身体と別々の悩みがありますが、出来るだけ要望を絞る様にして、我々としては、以前はあった行政サービスが担当者が変わる度に引継ぎがされず消えて行き、それを障害者の自立と言う言葉で片付けられて、福祉大会等に参加するたびに近隣市町に比べても福山はなんでそんなに福祉に冷たいのかと言われている現実を訴えました。

今回の要望事項要点

1、NPO法人となった市身連に新たに専従職員を置くほどの委託事業を考えてもらいたい。

(たちまちB型などの具体的要望が出れば対応は早くできるとの返答あり)

2、県、中四国、全国福祉大会などに行行政職員の同席を願う。

(検討しますとの返答)

かたにたてた
多面にわたる

4、障がい者相談員研修の助成を。

中四国、全国研修会に参加費助

成がここ何年か立ち消えであり
元に戻っていただきたい。

5、障がい者団体活動のために必要なりフト付きバスを市内バス

会社等に助成して整備を願う。

6、福祉大会（全国、中四国、広

島根 参加の際、手話要約筆記
ガイドヘルパーの派遣を願う。

福山市身連
二月 連絡会

二月二〇日 市身連事務所

事が出来たので、予約してこの会議に図り決定となりました。

次に、前日市役所福祉事務所長と面談をして、六項目の要望をしてきたことの説明をし、多少議論があつて、回答を待つことと了承となりました。

また、先日県身連より申し出のあった障害者対象のパソコン教室

を福山地区で開催する件についていいことなので、パソコンのソフトの新旧、日程を2日づつで講習できるか等、具体的な確認を県身連ととって実施の方向で検討となりました。ほかに一、二の話があつて終了しました。

第2回 びんごアマチュア音楽フェス 音の音

2014. 11. 23～24 東部市民センター

昨年から始まったびんご地域の和・洋楽、バントワリング、チアリーダーなどの音楽関連のアマチュア愛好家たちのフェスティバルが、今年第2回の発表会を十一月の二十三～二十四日の二日間にわたって開催されました。

初日の二十三日は午後の三時から先ずヨイバトンスクールのバントワリングから始まり、幼い子達も日頃練習している成果を精一杯発表する場であったり、八〇歳を超える視覚障害者の方のしっかり練れた大正琴の演奏とか、それぞれの人が日頃楽しんでいる趣味を発表できる場となっていました。

二十三日は十二組の出演で、翌二十四日は終日二十三組もの出演者がエントリーしてお

り、三原から東寄りの県東部の音楽好きのアマチュアがグループになりバンドを組んだりするなど、若い時から現在の、おじさん・おばさんバンドになるまで本当に音楽好きで長年続けている、楽しみで仕方ないと言う思いが伝わってくる催しでした。

音楽に体の障害はもちろん何の垣根もなしと、市身連会員の人も参加し、根本氏はハーモニカの演奏、車イス協会の坪山くんは、高校時代を思い出してトランペットの演奏でそれぞれソロで出演しました。

この催しはすでに来年の市政一〇〇周年のプレイベントの行事参加が決まっているそうです。

連合会活動にご協力を

私達 福山市身体障害者団体連合会はNPO法人として認可され、現在会員の会費と市の補助で、厳しい運営を余儀なくしております。会員会費のほかに、賛助会員制度を設け広くご入会を案内して、ご協力をお願いしております。(団体は何口でもけっこうです)

個人賛助 年会費 5000円 団体年 一口 10000円

(ご協力は連合会加入の各協会か、事務局までご連絡お願いします。)

NPO法人 福山市身体障害者団体連合会

事務所 福山市佐波町二六二二三 福山人権交流センター内

電話 084・961・4733

ホームページ開設へ

年度初めに義倉に助成を申請して認可され、開設に向け準備をしていたホームページですが、広報の内容や、プロバイザーの選定、開設料金のことなどで何回か事務局・広報部で検討していましたが、下準備が出来た頃に、OCNは新規の開設は受け付けなくなり、改めてそこから決め直し、今、仮に

編集委員会より

今回の記事のメインは、研修&

開設した状態にして、会員には視覚障害者の人もいますので、音声読み上げのできるかどうかを検証中です。

理事長も折に触れホームページについて触れられており早急に開設して、義倉にも報告できる状態にしなければなりません、大枠の形は出来ましたのでまもなく会員や、一般の方々にも見てもらえる事になると思います。

忘年会の報告とと思っていましたが急遽衆議員の総選挙が14日投票と決まったため、NPO法人の研修と合わせて計画されていた忘年会は1週間ずれて、発行に間に合わないと思い、次号で報告する事にしました。ちょっと間が空いてどうかと思いますけど・・・

16号は新年になってお届けしますので会員の皆様、明けておめでとうございます。今年も皆様お元気でご活躍の一年でありますようにお祈り申し上げます。